



⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-198119

⑮ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)8月29日

G 06 F 3/02  
15/20

3 7 0 A  
5 8 6 A

7530-5B  
7165-5B

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全4頁)

⑬ 発明の名称 情報処理装置

⑰ 特 願 平1-342031

⑱ 出 願 平1(1989)12月27日

⑲ 発 明 者 麻 生 忠 臣 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
㉑ 代 理 人 弁理士 栗野 重孝 外1名

明 細 書

1、発明の名称

情報処理装置

2、特許請求の範囲

(1) 入力装置と、前記入力装置からの信号で動作する中央演算処理装置と、前記中央演算処理装置からの表示信号によりディスプレイに表示する表示装置と、データを蓄積する記憶装置とを具備し、前記ディスプレイに表示されるメニューに、項目ごとに操作説明を指定するサブメニューを設けるとともに、ポインティングデバイスによる前記入力装置より前記サブメニューを選択することにより、そのメニュー項目に関する操作説明表示手段を有する情報処理装置。

(2) 操作説明表示手段が、ウィンドウ表示する機能を有する請求項1記載の情報処理装置。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明はワードプロセッサや、DTPなどで、操作のための機能を説明する項目を選択するため

のメニューを備えた情報処理装置に関する。

従来の技術

近年、ワードプロセッサやDTPなどのようなユーザインタフェースを備えた入力装置は、技術の進歩によって機能の拡張が日々行われている。それにつれてメニューの項目も増大しており、取扱説明書を見なければ操作方法が理解できないほどになってきている。そこで、このことを解決するために、装置の中に操作説明を表示する、いわゆるオンラインヘルプの機能を備えるようになってきた。しかし、従来の表示方式では表示文字数に制約があったり、操作が面倒であったりしていた。

第1の従来例としてカーソルの存在する位置の項目に関する説明を常に表示する方法がある。

第4図に示すように画面上に説明をメニュー表示する行21を設け、カーソル23がメニューの項目を選択するのに応じて説明ライン22にその項目の機能が表示される。

第2の従来例としてメニューから「操作説明」

の項目を選ぶ方法がある。

第5図(a)に示すようにメニュー31の中に操作説明の項目がある場合である。この項目をカーソル32で選択すると第5図(b)のようにさらに細かいメニュー33が表示され、それらの項目を選択すると説明34が表示される。

発明が解決しようとする課題

第4図に示す方式は説明が常に表示されているので、分かりやすいが、その反面、つねに画面上に表示用のスペースが必要であり、そのスペースを小さくするために解説が簡単にならざるを得ないという課題がある。

また第5図に示す方法は、説明を表示する領域は大きく取れるので詳しい説明を表示することができる。しかし、操作性の点で第1の従来例に劣る。

本発明は、前記従来の問題に留意し、操作性の高い操作説明表示を行うことのできる情報処理装置を提供しようとするものである。

課題を解決するための手段

本発明の上記目的を達成するために情報処理装

置のディスプレイ表示されるメニュー上の項目それぞれに、操作説明を指定するためのサブメニューを設ける手段を設け、そのサブメニューをポインティングデバイスで指定する入力制御を行うことにより指定した項目の操作説明がウィンドウ表示されるようにしたものである。

作 用

上記構成の本発明の情報処理装置は、一般のメニュー表示をする目的である、各項目ごとの「実行」指定を行うこと以外に、各項目ごとに「操作説明」を指定するサブメニューを設けたものである。そのためディスプレイにメニュー表示をして、「実行」したい場合はその項目をたとえばマウスで指定すれば、その項目が「実行」される。または操作説明を見たい場合は、その項目のサブメニューをマウスなどで指定すると「操作説明」の画面が表示されることになる。この「操作説明」表示をウィンドウ表示することにより、より操作がしやすくなる。

実 施 例

第1図は本発明の実施例の構成を示すブロック図である。本実施例の情報処理装置は、入力装置の一部である入力制御部4により動作する中央演算処理装置3と、ディスプレイ6上に表示するための表示制御部2と、本装置の主メモリの主記憶部1と、入力装置の一部であるポインティングデバイス6で構成されている。なお前記ポインティングデバイス6にはマウスやトラックボールやキーボードなどがある。

つぎに、これらの各構成要素の互いの関連動作を説明する。第2図(a)は本実施例によるメニュー表示の例である。この例では、ポップアップメニューを使用しているが、プルダウンメニューやブルアップメニューなどメニューの表示の仕方に関係なく使用可能である。入力装置の指示により、第2図(a)のようにディスプレイ6上にメニュー15が中央演算処理装置3により表示制御部2を介して表示される。このメニューは複数の項目からなっている。例では「切りとり」と「はりつけ」の2項目が表示されている。この項目ごとに、機能

説明用のサブメニューがあり、「切りとり」の項には機能説明指定領域12があり、「はりつけ」の項11には領域13がある。この領域を第2図(b)のごとくポインティングデバイス(この例では矢印14で示す)で指定すると、操作説明が表示され、また第2図(c)のようにそれ以外の領域を指定すると、その項目が実行される。このように、同じメニュー上で指定する個所により、「操作説明」と「実行」の区別ができる。

つぎに第3図に従って操作の手順を説明する。メニューの方式はポップアップメニューで行うこととする。

マウスのボタンを押すとポップアップメニューが第3図(a)のように表示される。つぎにメニューの中でボタンを押したままカーソルを移動させると、カーソルの下の項目が反転する。カーソルを第2図(b)のように機能説明用の領域に移動させ、マウスボタンをはなすと、最後に選択された項目に関する操作説明を表示するためのウィンドウが第3図(b)のように開く。見終わったら操作説明表

示用のウィンドウ内にある「確認」のボタンを第3図(c)のごとく押すと元の画面にもどる。

#### 発明の効果

以上の実施例の説明からも明らかなように簡単な操作でメニューの項目の機能の説明を参照することが可能となり、操作性の向上に著しい効果を得ることができる。

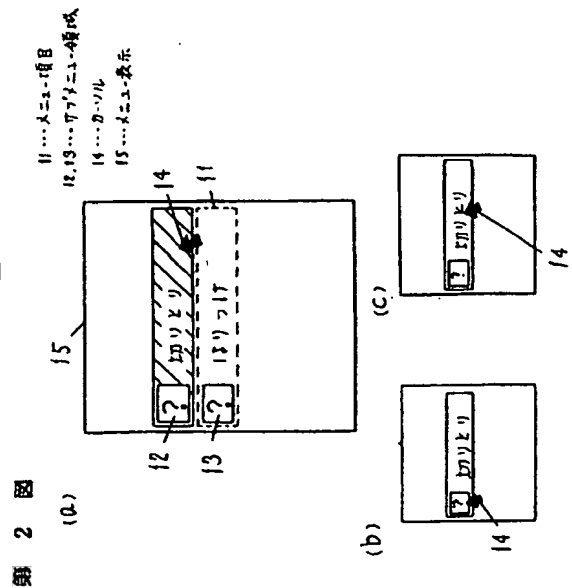
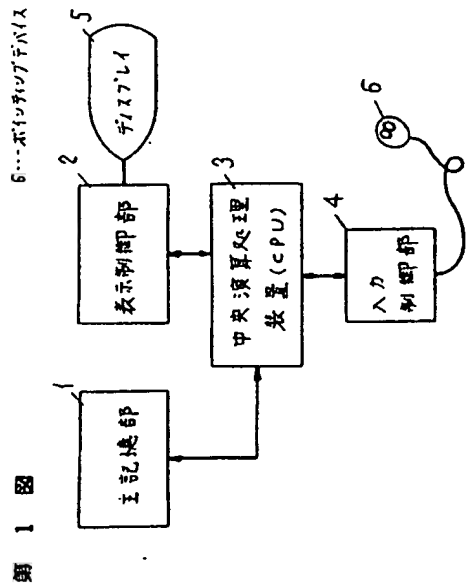
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の構成を示すブロック図、第2図(a), (b), (c)はそれぞれ本発明の実施例説明のためのディスプレイ表示図、第3図(a), (b), (c)はそれぞれ同実施例での操作の一例を説明するためのディスプレイ表示図、第4図は第1の従来例を説明するためのディスプレイ表示図、第5図(a), (b), (c)はそれぞれ第2の従来例を説明するためのディスプレイ表示図である。

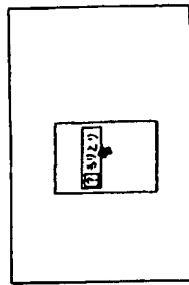
1 ……主記憶部、2 ……表示制御部、3 ……中央演算処理装置、4 ……入力制御部、5 ……ディスプレイ、6 ……ポインティングデバイス、12 ……サブメニュー領域、14 ……カーソル、

15 ……メニュー表示。

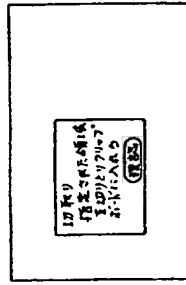
代理人の氏名 井理士 栗 野 重 幸 ほか1名



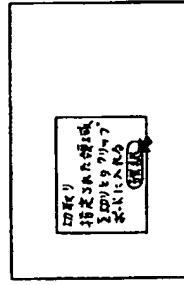
第 3 図 (a)



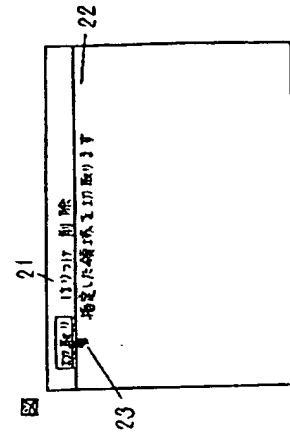
(b)



(c)

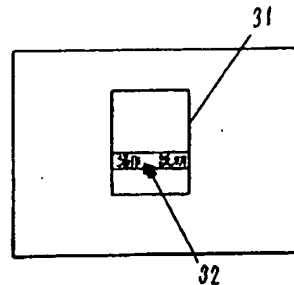


第 4 図

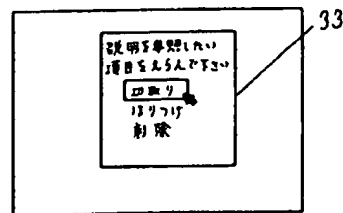


第 5 図

(a)



(b)



(c)

